

道徳授業研究協議会

H29. 7. 5

題材 3年「花だんとうばん」

1. 授業内容

- ・ 動植物を育てた経験について、そのときの気持ちとともに発表した。「ミニトマトを育てたときは元気に育ててほしいと思いつながら世話をした」「へびの世話をしたときは、長生きしてほしいとおもった」などと、実体験を発表した。
- ・ 本時の題材の問題点を共通理解するため、「とし子さんは何に困っているのでしょうか」の発問では、「花が枯れたらどうしよう」という心配事がすぐに児童から出てきた。そこで、動物園行きは、とても楽しみにしていた予定であったこと、車で30分かかる距離であることなどを補足し、児童の心を揺さぶった。
- ・ 中心発問「あなたは、とし子さんにどんな言葉をかけてあげますか。」を考えるにあたって、今回は役割演技を取り入れた。はじめはペアで行い、その後、教師がとし子さんになり、声をかける役を児童が行った。
- ・ 最後に、今日勉強したことを今後植物を育てる時にどうつなげていくかを考えた。



2. 研究協議会より

(1) 方向付けについて

- ・ 主題の内容項目を、自然愛・動植物愛護としたが、思いやりの部分も内容としては考えさせなかったため、2つの項目にするか、1つに絞るべきか案を立てるときに迷った。授業では、児童の思いが2つの方向へ流れていったので、どちらかの柱をしっかりさせた方がよかった。
- ・ 花壇の水やりはやらなくてはいけないという思いが初めから児童にはあったので、この授業の中でその部分についての心の変容はあまり見られなかった。しかし、次の自分の生活につながる機会にはなったと思う。

(2) 問題点の把握について

- ・ 時間配分が長くなってしまった。ここでは、何が問題点なのかを共通理解すればよいので、あまり深く考えさせなくてもよいのではないだろうか。
- ・ いろいろと意見が出すぎてしまい、問題点の絞り込みができなくなってしまった。ここでは、動物園へ行く途中だが、一端あきらめて花壇の水やりに戻るということを押さえるべきだった。そうすることで、次の役割演技につながり、授業者のねらいにせまることができたと思う。

(3) 役割演技について

- ・ 児童の本音を引き出すにはいい手法だった。ペアで行う時に、何についての言葉がけをすればよいのか分からない児童もいたので、しっかり理解させてから行えるとよりよい。
- ・ 役割演技はみんなが集中してできたのでよかった。とし子さんと相手役を交代して、双方

の気持ちを考えさせてもよいと思う。

- ・ 今回、代表児童の発表では、教師がとし子さんの役を行った。児童同士の発表だと、切り返しがうまくできず、言葉が広がらないので、この方法でよかった。
- ・ 問題点の把握で、ねらいに沿った問題点だけに絞れなかったもので、ねらいとずれた声かけをしている児童も多かった。今回は認めざるを得ない状況になったが、今後は、問題点のところでしっかりとねらいを押さえ、中心発問へとつなげ、ねらいに沿った役割演技にしたい。



↑
ペア

〈役割演技〉
教師と児童→



(4) 繰り返し発問について

- ・ (2)の問題把握のところでは、「何に困っているのでしょうか」だけでなく、補足発問もしたが、ある程度意見が出てからでなく、もう少し早く、補足発問をしてもよかったと思う。
- ・ 「困っている」という言葉で聞くよりも、「とし子さんはどんな気持ちなのだろう」「なぜ、涙を流して悲しんでいるのだろう」「何を悩んでいるのだろう」とした方が深く考え過ぎなかったのではないかと。
- ・ 繰り返し発問は、児童の意見をまとめていくのに役だったが、花壇の花は本当に大丈夫なのかもっと切り返しておいた方がよかった。
- ・ 繰り返しで、水やりに戻る・戻らないの基準を話し合う方法もあるが、中学年には難しい。

(5) その他

- ・ 教材文には、考えのもととなる文が書かれているので、教師がしっかりと文を読み、理解した上で案を立てたり、授業を行ったりしていきたい。

今回だと、『昨日』『なえ』『とても暑い日』『水をやってもすぐかわく』『次の日』などがキーワードになる。ここを押さえておくと、状況を理解し、水をすぐにあげなくてはいけないという思いが強くなると考える。

- ・ 今後の教科化を考えると、始めに本時のめあてを児童に提示する方法はどうだろうか。少し試してみたが、児童の話し合いでねらいがぶれることは少なく、理想への考えが深まった。また、それが自分事として考えられたので、この方法も道徳的価値を実践力につなげ、高める方法の1つとしては、よいと思う。

